

日本化学連合 化学系学協会連絡会の発足について

一般社団法人日本化学連合
会長 岩澤 康裕

趣意書

これまでの飛躍的な技術革新により、高度で豊かな現代社会が構築され、この過程において、化学を基礎とする学術領域の発展や産業への応用研究が大きな役割を果たしてきました。一方、化学の研究分野の多様化と対象の拡大は、化学産業にも大きな影響を与え、化学技術が多くの産業で活用されるに至っています。これらの基盤となる学術や産業を支える学協会も、インターネットの普及と情報収集の行動変化、専門領域の深化、学際・新興領域の発展、産業構造の変化、会員ニーズの多様化、会員減少に伴う事業運営など多くの課題に直面しています。さらに、持続可能な社会、Society5.0が描く新たな社会、AIと情報通信が築く社会環境など、外部環境も大きく変化しています。

このような状況の中、分散化する学協会活動において、学協会間のネットワークやコミュニケーションによる情報共有や共通課題の解決が取り組むべき喫緊の課題となっています。2007年に日本化学連合が設立され、10年以上にわたって参画学協会を中心に活動を行ってきましたが、これまで以上に化学系学協会の幅広いネットワークが必要な時代となっている現状を考え、化学系各学協会事務局の連携、情報交流などを目的として、新たに「化学系学協会連絡会」を発足することにいたしました。

本連絡会は、政府政策等の学協会への情報提供、学協会のプラットフォーム整備のための情報共有、学協会の連携強化などを行い、日本化学連合の会員学会のみならず、多くの化学系学協会にご参加頂くことにより、日本の学協会の発展に寄与したいと考えています。

このような活動は、日本の学術領域の進展および新たな社会環境下での産業創成に資するものであり、将来においては政府提言やアジア各国との連携も視野に入れ、日本の競争力向上に寄与していく所存です。

平成30年度連絡会幹事学会
日本化学会、高分子学会、化学工学会、日本薬学会